

島根県公立小中学校
事務職員研究会

会長：青山悦子
(松江市立島根中学校)

編集：情報部

VOL.59 2017.3.3 (雛祭号)

発行責任者 蘿 恵 (川本小学校)

島事研ホームページ

<http://www.oh-net.com/~kenjiken/>

爽

SOU

【目次】

- ▶ 学校事務職員に期待すること
(島根県教育センター所長 村木隆夫)
- ▶ 研究部・研究委員会の取組
- ▶ 学校事務セミナー参加者の感想
- ▶ 研修報告(中国地区事務研究大会)
- ▶ 人権コーナー
- ▶ まんが「フーちゃん」
- ▶ 編集後記



… 学校事務職員に期待すること …

島根県教育センター所長 村木 隆夫

『…略… 学校事務職員は、総務・給与・財務などを主に総括する専門スタッフとして学校経営の重要な役割を担うことが期待されています。このために、迅速・正確な事務処理能力や情報収集・分析能力はもちろんのことですが、これからは一層、学校経営の視点から課題を整理し解決するための提案ができる能力、保護者や学校内外の関係者と連携し協働した学校づくりのためのコミュニケーション能力・調整力等が求められます。…略…』 この文章は、平成28年度新規採用小・中学校事務職員研修教育センター研修 閉講式で私が述べさせていただいた挨拶の一部です。20年後、30年後の学校を支えていただける新規採用の学校事務職員の方々に対して、私なりに最大のエールを贈らせていただきました。目を輝かせて聴いていただいたことに感激いたしました。実はこのエールは、全ての学校事務職員の方々に対しても期待していることです。



これまで、教頭や校長として勤めて参りましたが、その経験から改めて学校事務職員の方の力なくしては、学校経営はできないと強く実感しております。今、全ての教職員にマネジメント能力が求められています。PDCAサイクルをいかにまわしていくか。校長として学校経営を行う際にどうしても気になるのは、予算のこと。やりたいことがヤマほどある…。しかし、限られた人材、資源、予算をどうやりくりしていくか。こういったことは、教頭、学校事務職員、教務主任等との綿密な打ち合わせ、共通理解が必要となってきます。中でも予算をどう確保していくかということは、教員の一番苦手な分野です。行政職員である学校事務職員の力量に頼らざるを得ません。もっと言えば、どれだけ管理職と学校事務職員が近い距離にあるかということが、学校経営には絶対に大切だということを身をもって体験させていただきました。また、一日の大半を職員室で勤務をされることから、教職員との関係も近い。児童生徒の対応はもちろんのこと、保護者や業者への対応といったようにその守備範囲はかなり広い範囲に及びます。今、国の教育改革が急速に進められています。「社会や地域に開かれた学校」「チームとしての学校」等、これからの学校には様々な期待が寄せられています。その中であって、学校をしっかりと支えていただいている学校事務職員の方々には常に管理職との連携を密にし、学校経営の視点をもって仕事を進めていただくことを期待しております。

研究部・研究委員会の取組

研究部 部長 岡田 由美



研究部コーナー前半では、今年度から本格的にスタートしたモニター地区での取組の様子を紹介しします。そして、島事研セミナーで講演いただいた文部科学省初等中等教育局参事官／木村直人様から、研究に関連したお話も伺うことができました。後半で会員の皆さんにお届けします！

1. モニター地区との連携・取組状況

9月末によやく「あっとん@タグファイル」を出雲市・浜田市の皆さんの手元に届けることができました。そこからそれぞれの地区での活用を始めました。(ちなみに出雲市はグリーン、浜田市はブルーのファイルです♪)

(1) 出雲市の取組内容

- ・それぞれの事務支援グループで活用する。
- ・年度末に具体的活用方法等についてはまとめを行う。



◎それぞれの学校での活用をまとめ、そのうちの一部を紹介するために「あっとん@タグ通信」を発行した。



「あっとん@タグファイル」の活用について話し合う出雲市東部事務支援グループの皆さん



(2) 浜田市の取組内容

- ・自己目標評価シートに記入した取組からピックアップして活用をすすめる。
- ・自己目標評価シートへの目標記入から評価記入の期間、自身の取組を記録しておくためのツールとして活用する。
- ・事務グループでの情報交換時に持ち出し、課題解決につなげるためのものとして活用することも考えられる。
- ・本校での管理職面接時、自己目標評価シートを補完するものとして提出したり、面接時に活用することも有効だと考えられる。

(3) 研究部との連携

&出雲市

- H28/6/28 研究モニター地区概要と研究メモについて説明 (出雲市事務職員会総会)
- H28/9 下旬 『あっとん@タグファイル』配布
- H28/12/9 あっとん@タグ→逆転発想マネジメントシートへの転記について説明
前向きな世代交代についてミニ研修 (出雲市事務職員会役員会)
- H29/1/20 研究部からの連絡 (出雲市事務職員会冬季研修会)

&浜田市

- H28/8/10 研究モニター地区概要とあっとん@タグについて説明会 (浜田市教育研究会事務部会)
- H28/10 月上旬 『あっとん@タグファイル』配布



その他、要望のあった事務支援グループへ近くの研究部員が訪問し、ミニ説明会を行いました。

なかなか機会が持てませんでしたが、来年度はもっとアクティブに、短時間でももっと訪問させていただきたいと思っていますので、浜田市の皆さんよろしくお願いします！

(4) 今後の取組 (共通)

- ・「前向きな世代交代を実現するロールモデルと次世代リーダーの確立」(仮称)を視点においた活用を組み込む。

2. 文部科学省＊木村直人参事官に Q&A ～研究の視点から～

島事研の活動に積極的に取り組んで行けるよう、またより意欲的に日常業務に向かうことができるよう、木村様より研究の視点から具体的なアドバイスと激励の言葉をいただきました。

Q1 島根の印象 ～before & after

先日はお忙しい中、島事研セミナーで講演・ワークショップをしていただき、ありがとうございました。島根県の学校事務職員にはどのようなイメージをお持ちでしたか？また来県されどのような印象を持たれましたか？

A 木村参事官 >>>

先日は島事研セミナーにお招きいただきありがとうございました。試行錯誤の中で作られたプログラム、せっかくだけやるのであれば思い切ったことをしようと思われたいところから提案をさせていただきました。前向きに取り組んでいただいているさなかに、あちこちで壁にぶつかっている様子が伝わってきて、「本当に大丈夫なのか？」と、当日まで不安でい

っぱいでしたが、実際セミナーが始まるとそんな不安はどこへやら。最初こそ、静まり返っている会場で孤独感にさいなまれましたが（笑）、皆さんが楽しそうにワークショップをやっているのを見させていただき、こちらも非常に楽しい気分になりました。

一番嬉しかったのは、休憩時間中に若手の事務職員の方が私のところに来て、「今日のワークショップは本当に楽しかった。いろいろな人たちとこういう議論をするのは初めてです。」と言ってくれたことです。裏返せば、今までこのようなやり取りを行う文化がなかったということの証拠です。管理職との会話が少ないがために意向を無用に忖度し、あーでもないこーでもないと右往左往し、結果として当たり障りのないことしかしてこなかった、ということではないでしょうか。

当日おいでいただいた校長先生は、本当に事務職員に対する理解があり、一緒に学校経営を進めていきたいと仰っていました。話は通じるんです。本当に学校経営を考えておられる管理職であれば、事務という経営の基盤を支える職種を担っている皆さん方の言葉を聞かないわけがないです。今回のセミナーでそれを実感した人も多いと思います。その思いを次の会話に結びつける中で、参加できなかった人たちとも思いを共有して、風通しの良い職場づくりをしていただきたいと思います。必ずできますよ！




Q2 「研究」と日常業務の結びつき

研究部では、研究が業務改善のための方策を生み出すものであるという提案を具体的に示していく必要があると考え、現在、活動を展開しているところです。参事官は「研究」と日常業務の結びつきについてどのように思われますか？研究部にイノベティブ(革新的)な視点を与えていただけたら嬉しいです。

また事務職員が前向きに「研究」を日常業務に結びつけていくためにどのような意識を持つことが大切だと思われますか？

A 木村参事官 >>>



なぜ研究するのか、原点に立ち返ってみてください。そこに未知のものがあるから、解決すべき課題があるからです。研究をすることそのものが目的になっていませんか？今日の前で抱えている困難、将来見えてきている壁、それを解決するための具体的な手法を提案し、かつ実践までもっていくのが研究のそもそもの目的です。研究をし、実践した結果失敗することもあるでしょう。むしろ失敗することのほうが多いかもしれません。でも、失敗を分析することこそが次のステップを踏んでいくうえで非常に大きな糧になるのです。これは島根県だけの話ではありません、全国どこでも


そういう傾向があるのですが、とりあえず研究をやりました、こんな結果が出ました、で終わっている報告書のいかに多いことか！結果を生かしていくうえではデータが必要です。結果を実践した結果具体的にどのような効果が見えてきたのか、データや数値で示さないと、フォロワーになる人は何を基準に判断したらいいのかまったくわかりません。結果として研究がやりっぱなしで終わってしまうのです。

こういう仕事のやり方で本当にいいのか？って普段疑問に思っていること、そのままにしませんか？解決のために動きませんか？それが自分だけでなくみんなの役に立つものになるかもしれないんです。自分の研究成果がほかの人にも活用される、ってとてもうれしいことじゃないですか。今度はこんなことやってみようって次のモチベーションにもつながるじゃないですか。ここが一番の肝なんだろうって思います。後に役に立つ、自分もやってよかったと思える研究をしてみましようよ。

Q3 「前向きな世代交代」を実現するために

研究部では「前向きな世代交代」とは“誰にとってもプラスの要素をもたらす世代交代”と考えていますが、「前向きな世代交代」を実現するために、若手、中堅、ベテラン、それぞれの世代で心がけるべきことにはどんなことがあるとお考えですか？

A 木村参事官 >>>




世代交代を行う上で大事なことは、若い世代に知識や経験が確実に受け継がれていくことだと思っています。その意味で、一校一人配置が原則の事務職員ではそれが難しかったという現実があったの

だろうと思います。ただ、最近では事務の共同処理や、業務改善の活動などを通じて、事務職員の中でもネットワークが出来上がりがつつあります。このつながりを通じてベテランは今までの経験から得られた教訓をしっかりと引き継いでいく、ただ引き継いでいくだけでは不十分だと思います。今までの足取りを振り返ってみて、こういう仕事のやり方はもう後輩たちにはやらせたくない、こういう思いはさせたくないという点があるのであれば、それをしっかりと改善のルールに乗せたくて後継に託す。中堅は、自らが今後の事務運営をけん引していくという意気込みを忘れずさらなる改善のための活動を続ける。そして若手はまずしっかりと基礎知識を身に付けていく中で、ベテラン・中堅では気が付きにくい新鮮な視点で今後の活動の方向性や具体的な改善方策について遠慮することなく提案をしていくというマインドが必要だと思います。

島事研セミナーを見ていても世代を超えて皆さん仲良しでしたよね。これってとっても大事なことだと思います。

ブレイクタイム



**お忙しい毎日をお過ごして
すが、木村参事官の”息抜き”つ
て何ですか？**

仕事が終わって、飲み屋でホッピー(ご存知ですか?)をあおっている瞬間が一番幸せですね。あとはポケモンGOかな。島根にお邪魔した時はポケストップのあまりの少なさに難儀しました(笑)

Q4 島根県の学校事務職員に

「座右の銘」をお持ちでしたら、それと絡めて叱咤激励をお願いします。

愛ある「叱咤激励」を！

A 木村参事官 >>>

座右の銘みたいに立派なものを持ち合わせているわけではありませんが、仕事をやる以上は

楽しくなければ意味がないし、楽しく仕事をやろうとするからこそ、新しいアイデアも生まれやすくなるんだと思います。常に一步前に進むこと、その積み重ねが次の一步になり、新しいステージに入っていくための大事なアクションです。まっすぐ進めなくてもいいんです。後戻りしたっていいんです。時にはめげることもあるでしょう。でも、いつも楽しく取り組むことを意識していれば、必ず乗り越えていけます。仲間も増えてきます。一人の力が大きな動きになり、変化が必ず生まれてきます。頑張ろうなんて意気込まないで気楽に取り組んでみましょうよ。現状維持をしたい気持ちはよくわかります。ただ、現状を維持しようとするほど、結果として後退していくんです。何かやろうとすれば必ずエネルギーがいらいます。でも、挑戦を繰り返しながら得られた達成感って何物にも代えがたいですよ。チームとしての一体感もそこで生まれます。

やってみましょう！「**楽しまねば、しまね！**」の精神で。



木村参事官 ～ お忙しいところ、ありがとうございました ～

第13回 参加者の感想 島根県 学校事務セミナー

期日：1月27日 会場：パルメイト出雲

< 講演・ワークショップ >

「これからのチーム学校を語ろう
～子供たちが志を果たしていける未来のために～」

講師：文部科学省初等中等教育局
参事官（学校運営支援担当） 木村 直人 様

< 講話&グループワーク >

「『志（こころざし）の木』を实らせ、
明日への種をまこう！」

〔小中学校管理職の方による『管理職のマネ
ジメント戦略』に関する講話、管理職を交
えて少人数でのグループワーク〕

管理職の先生と一緒に話し合ったり一緒に考えたりできたのが良かった。
たくさん話し合えて、いろんな考えが聞けて刺激になった。

協議の中で明日からでも活かせる内容を多く聞くことができた。
講義形式のものより為になった事が多かったように感じた。



自分のいいところを見つけ、そこからできることを考えて一步踏み出していきたいと思いました。
1日を通して同じグループで協議することで、徐々にお互いのことを知り、考えを深められるよう
になったので良かったです。

どんな研修をしようか頭を悩まされたことと思いますが、参事官のお話が直接聞けたり、管理
職と共に考えたりする事ができる貴重な時間になったと思います。大変ありがとうございました。

参加型の研修会の新しい企画をありがとうございました。自分で考え、
みんなで共有することで元気をもらったように思います。



小さくても新しい一步を踏み出してみようと思いました。まずは授業を見に行ってみようかな？

講演の中にもワークがあり、楽しく参加できました。チーム学校について文科省の方からお話を
聞くことができ勉強になりました。

自分が学園の一員だと仮定して参加できたので、自校に置き換えて現実的に考えることができま
した。子どもが主役、判断基準だということを再認識しました。

みんなで戦略会議を是非、校内や共同実施グループでやってみたくくなりました。

チーム学校の一員として子ども達のためにまず一步踏み出してみたくくなりました。
つながりを大切に学び続けていきたいです。



平成28年度 中国地区公立小中学校事務研究大会 第50回 鳥取県公立小・中・特別支援学校事務研究大会 参加報告 <島事研情報部>

12月16日 (会場:米子コンベンションセンター)

実践発表【鳥取支部】

「鳥取県学校事務職員のカイゼンの取り組みについて」

鳥取県では昨年度から、カイゼン推進委員会という組織を立ち上げ、負担と感じている業務内容の実態調査を行い、業務改善、標準化、効率化に有効な手立てを提案する取組をしている。今回、経験別、地域別で一番負担を感じている『文書の收受、発送、整理及び保管』の分析・考察の報告であった。多くの学校事務職員が1人で勤務しているというところで、負担感という着眼点より、一人一人の意識や想いを集め、県全体で共有化を図り、県全体の課題として共有認識されている取組に敬意を表したい。この取組が「子どもたちの学びの支え」へつながるよう応援したいと思う。今回は『文書管理業務』の報告であったが、違う業務内容についても分析・考察結果を知りたいと思った。

講演会「学校事務職員の多忙解消にむけたカイゼンの取り組み」

講師 三菱UFJリサーチ&コンサルティング主席研究員 善積康子 氏

日本の教員の勤務時間は国際的にみても長く多忙を極めていると言われている。そんな中、学校事務職員は学校経営の専門スタッフとして中心的な役割を担うことが期待される役割となっている。私たち学校事務職員はどのように動いていけばいいのか今日の講演でヒントをもらった気がする。

演習で行った内容は、チェックシートで日頃の業務の何を改善するか洗い出し、そこで改善しようとしていることは効果が大きいのか小さいのか、実現できそうかそうでないかを図に表し可視化するというものだった。何から取り組めばいいか悩んだ時にヒントをもらえる便利なツールだと思った。

学校全体の多忙感を解消するために業務改善が必要ということが言われている今日。業務改善は自分1人で行うことではなく、チームでコミュニケーションを取り合い、こんな学校にしたいという思いを共有しながらみんなで進めることが大事だと感じた。小さな取組の積み重ねからムダを無くし、生まれる時間や余裕が、みんなのやる気や心のゆとりにつながり、学校全体が子どもたちへ前向きに向き合える気持ちになっていけば理想的だと思った。まずは自分が動き出さなければ…。

第1分科会「教育環境整備」

【鳥取県】教職員向け事務講座「じむりえ北栄」の企画・開催
【島根県】「子どもと一緒に進める安全・快適な学びの環境づくり」

鳥取県北栄町では、共同実施組織が町内の教職員向け事務研修を行っている。制度や事務処理の周知徹底が難しい・教職員がマナーや法律について学ぶ機会が少ないことへの課題意識から、町内の学校事務職員が各校へ出向き、夏季休業中の職員会議や校内研修会において30分ほどで研修をしている。「給与・旅費」等事務的な業務を始め、「待遇やコンプライアンス」にも重点を置いて、演習や寸劇を交えて(寸劇は実際に披露された)説明される様子から教職員に伝えようとする熱意を感じた。

雲南市は、学校事務職員が起点となり、教職員・子ども・地域と共に教育環境整備に取り組んでいた。児童・生徒会活動の中で安全点検を行い、自分たちが生活する学校を子どもたちが主体的に整備するだけでなく、地域への情報発信・整備への協力を通して地域全体で学校の整備をしていく形は地域とともにある学校の姿だと思う。

第2分科会「人材育成」

【広島県】「広島県事研ビジョン実行に向けて
～研修マイファイルについて～」
【岡山県】事務共同実施における人材育成

第2分科会は、全国的に多くの自治体が若手世代とベテラン世代の二極化を迎えている中での「人材育成」というテーマだった。事務職員キャリア形成のための指標を提示することによっての若手の研修目的意欲を高めたり、教頭との事務研修会を主催することによって、資料作成やプレゼンなどを行ったりしている。その過程をとおして、若手とベテラン両者が互いに資質を高めあうことで知識や技能を継承したり、教頭会との連携を図ったりとできることから取り組んでおられる印象を受けた。指導助言の校長先生のお話の中で、「機械は自らバージョンアップできないが、人間はそれができる。」という言葉がとても印象的で、それぞれ自らが学んでいこうとする姿勢こそが「人材育成」につながっていくのかなと感じた。

第3分科会「地域連携」

【鳥取県】教育活動と学校支援ボランティアをつなげるために～地域連携を教育支援に生かす取り組み～
【山口県】家庭・地域・学校を『つなぐ』学校事務職員～コミュニティ・スクールで学校事務職員ができること～

(鳥取県)事務職員が地域ボランティア担当となっており、学校支援ボランティアと教育活動をつなげる橋渡しをしている。
(山口県)つくる、つむぐ、つたえる、つなぐの4つの『つ』という具体的な目標を掲げて取り組みを行っている。





「和顔愛語」で毎日を!

松江市立玉湯小学校
恩田 みどり

みなさんは「和顔愛語」という言葉を聞いたことがありますか? 「和顔愛語」とは読んで字の如く、和やかな笑顔と優しい言葉を大切にしなさいという仏教の教えです。私が初めてこの言葉を知ったのは、新採で三隅町立岡見小学校(現:浜田市立岡見小学校)に勤務していたときでした。PTA研修会で益田のお寺の住職さんが話されたと記憶しています。研修会の後で当時の教頭先生が、「藤原さん(私の旧姓),『和顔愛語』はあなたにふさわしい言葉だ。あなたはこれからこれをモットーにしていきなさい。」と言われました。私も、自分の心の中にスーッと入ってきた素敵な言葉だったので、それからは「和顔愛語」を座右の銘として大切に、ずっと心がけてきました。

先日、事務グループ会でグループ内の学校へ行ったときのことで。最初と最後に職員室をのぞいて挨拶をするのですが、その学校の先生方の対応がとても温かく、気持ちのよいものでした。職員室におられた方ほぼ全員が仕事の手を止めて、私の方を見て笑顔で挨拶を下さったのです。中には、「いつもお世話になります。」と言って下さった方もありました。なんだかとても嬉しくて、温かい気持ちで帰ることができました。まさに「和顔愛語」を実践しておられるように感じました。

職員室で仕事をしていると、来客や電話の対応等で仕事を中断させられることがしばしばあります。忙しい時だと、相手を思いやるどころか、つい雑な対応をしてしまうことがあり、後でいけなかったなと反省することもあります。そんなときは「和顔愛語、和顔愛語・・・。」と自分に言い聞かせています。

心からの笑顔と優しい言葉は人を幸せな気持ちにするだけでなく、自分自身も幸せな気持ちになります。そして、温かいコミュニケーションが生まれ、心が元気になるのではないのでしょうか。私はもうすぐ退職を迎えますが、これからの人生も、ずっと笑顔と優しい言葉かけを大切にしていきたいと思います。みなさんも「和顔愛語」で毎日を過ごしてみませんか。



原作:千葉ひろみ 画:大橋幸子

【編集後記】先日、家の近所を流れる川沿いを散歩していたら、カモの親子と出会いました。カモの子どもたちが遊んでいると、数羽が急流に飲まれて200mほど流されてしまい、周りに天敵も多いこのピンチに親はどうするのか!と見ていたら、暢気にエサを捕っていました。子どもに鳴いて警告しないのかと思ったら、親はエサを捕りながら子どもの方を何度かチラッと見るだけ。一方、子どもは流されても周りを警戒しながら親の元へ帰っていったところを見ると、案外カモの親は子どもの自主性を伸ばす教育上手なのかもしれない、と思った冬の散歩道でした。(M・K)

